

今日のトピック 豪州の金融政策は13会合連続の据え置き (2017年10月)
豪州経済の順調な拡大などから豪ドルは堅調に推移しよう

ポイント1 政策金利は現状維持
市場予想通り1.50%で据え置き

- 豪州準備銀行 (RBA) は10月3日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置き決定をしました。13会合連続の据え置きです。ブルームバーグ社の集計によれば、対象27名のエコノミスト全員が据え置きを予想していました。

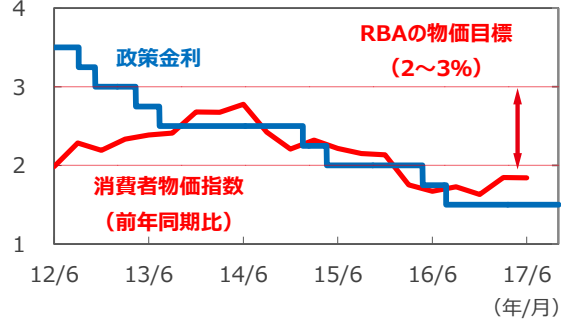
ポイント2 当面、金利据え置きの見通し
景気、物価はRBA想定に沿った展開

- 景気・雇用については、想定通り緩やかに拡大していると評価しました。大型のガスパイプライン・プロジェクトが進行しているほか、非資源セクターの設備投資も持ち直しつつあるようです。
- 賃金上昇率やインフレ率は、引き続き低い水準にとどまっていますが、経済成長率が高まるにつれ、今後緩やかに加速するとの見方を据え置きました。
- 為替については、前回と同様、豪ドル高がインフレを抑制する一方、景気・雇用の下振れリスクとなる可能性を指摘しました。
- 以上のような景気、物価、為替の評価に加え、中期的なリスク要因として賃金の伸び悩み、家計負債の積み上がりを挙げたことを勘案すると、金融政策は当面、据え置かれる見通しです。

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

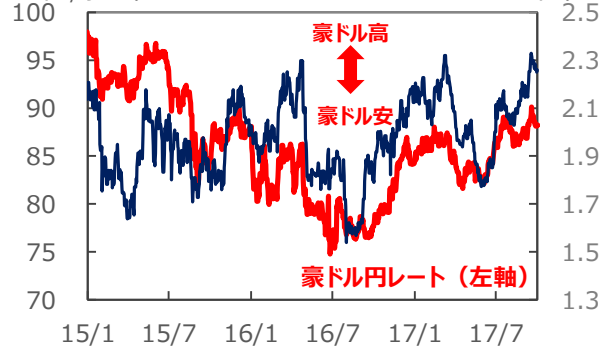
- 日豪金利差の拡大等により、最近の豪ドルの対円相場は堅調に推移しています。今回の金融政策決定会合直後の豪ドルは、事前の予想通り政策金利の据え置きが決定されたことから、主要通貨に対して小動きにとどまりました。
- 先行きについても、豪州の経済や国際収支が改善を続けている、主力輸出品である鉄鉱石や石炭といった資源価格が2015年末の低水準からは持ち直してきた等から、豪ドルの対円相場は底堅く推移する見込みです。

(%) 【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2017年4-6月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2012年6月30日～2017年10月3日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(円/豪ドル) 【豪ドル円レートと日豪金利差】 (%)



(注1) データは2015年1月2日～2017年10月2日、為替は2017年10月3日まで。ただし、2017年10月3日は日本時間14時半時点のレート。
(注2) 金利差は豪州 - 日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年9月22日 良好な豪州経済 豪ドルは堅調な展開が見込まれる
2017年9月 6日 豪州のGDP成長率 (2017年4-6月期)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。